

日蓮大聖人御書全集

きょうおうごぜんごしよ

経王御前御書

新版
1631
ゝ
1632

きようおうござんごしよ

経王御前御書

ぶんえい ねん

文永9年（'72）

51歳 さい

（四条金吾 しばしやうきんご）

しゅじゅおんおく もの

た そうら お

種々御送り物、給ひ候い畢わんぬ。

ほけきよう

だいはち

みようしゅごんのうほん

もう

みようしやうごんのう

法華経の第八、妙莊嚴王品と申すには、妙莊嚴王と

じやうとくぶにん

もう

きさき

じやうぞう

じやうげん

もう

たいし

みちび

浄徳夫人と申す后は、浄蔵・浄眼と申す太子に導かれ

たも

と

そうろう

きようおうござん

もう

たま

そうら

給うと説かれて候。経王御前を儲けさせ給いて候えば、

げんぜ

あと

継

こうし

ごしやう

みちび

現世には跡をつぐべき孝子なり、後生にはまた導かれて

ほとけ

成

たも

仏にならせ給うべし。

いま

よ

じよくせ

もう

みだ

そうろうよ

うえ

がんぜん

今の代は、濁世と申して乱れて候世なり。その上、眼前

よ なかみだ み そうら みなひと こんじよう きゆうせん なん
に世の中乱れて見え候えば、皆人、今生には弓箭の難に

あ しゅらどう 墮 ごしろう あくどううたが
値つて修羅道におち、後生には惡道疑いなし。しかるに、

ほけきよう しん ひとびと ほとけ な み そうら
法華經を信ずる人々こそ仏には成るべしと見えて候え。

ごらん ことしゅつたい み そうらうゆえ
御覽あるように、かかる事出来すべしと見えて候故に、

ちゆうや ひと もう き そうら もち
昼夜に人に申し聞かせ候いしを、用いらるることこそなく

とが おこな いわ な いにしえ
とも、科に行わるることは謂れ無きことなれども、古も

いま ひと そんな よ ことば もち なら つい
今も人の損ぜんとは善き言を用いぬ習いなれば、終には

もち よ なかほろ
用いられず、世の中亡びんとするなり。これひとえに、

ほけきよう しゃかぶつ おんつか せ ゆえ ぼんてん たいしやく にちがつ
法華經・釈迦仏の御使いを責むる故に、梵天・帝釈・日月・

してんとう

せ

こうむ

そうろう

よ

ほろ

そうろう

四天等の責めを蒙って候なり。また世は亡び候とも、

にほんこく

なんみようほうれんげきよう

ひと

とな

そうら

日本国は南無妙法蓮華經とは人ごとに唱え候わんずるに

そうろう

て候ぞ。

もう

おも

そし

ひと

もう

き

いかに申さじと思うとも、毀らん人にはいよいよ申し聞か

いのち

おわ

ごらん

すべし。命生きて御坐しまさば、御覧あるべし。またいか

とな

にちれん

あだ

ひとびと

かなら

むけんじごく

に唱うとも、日蓮に怨をなせし人々は、まず必ず無間地獄に

お

むりようこう

のち

にちれん

でし

な

じようぶつ

堕ちて、無量劫の後に日蓮の弟子と成って成仏すべし。

きようきようきんげん

恐々謹言。

にちれん

かおう

日蓮

花押